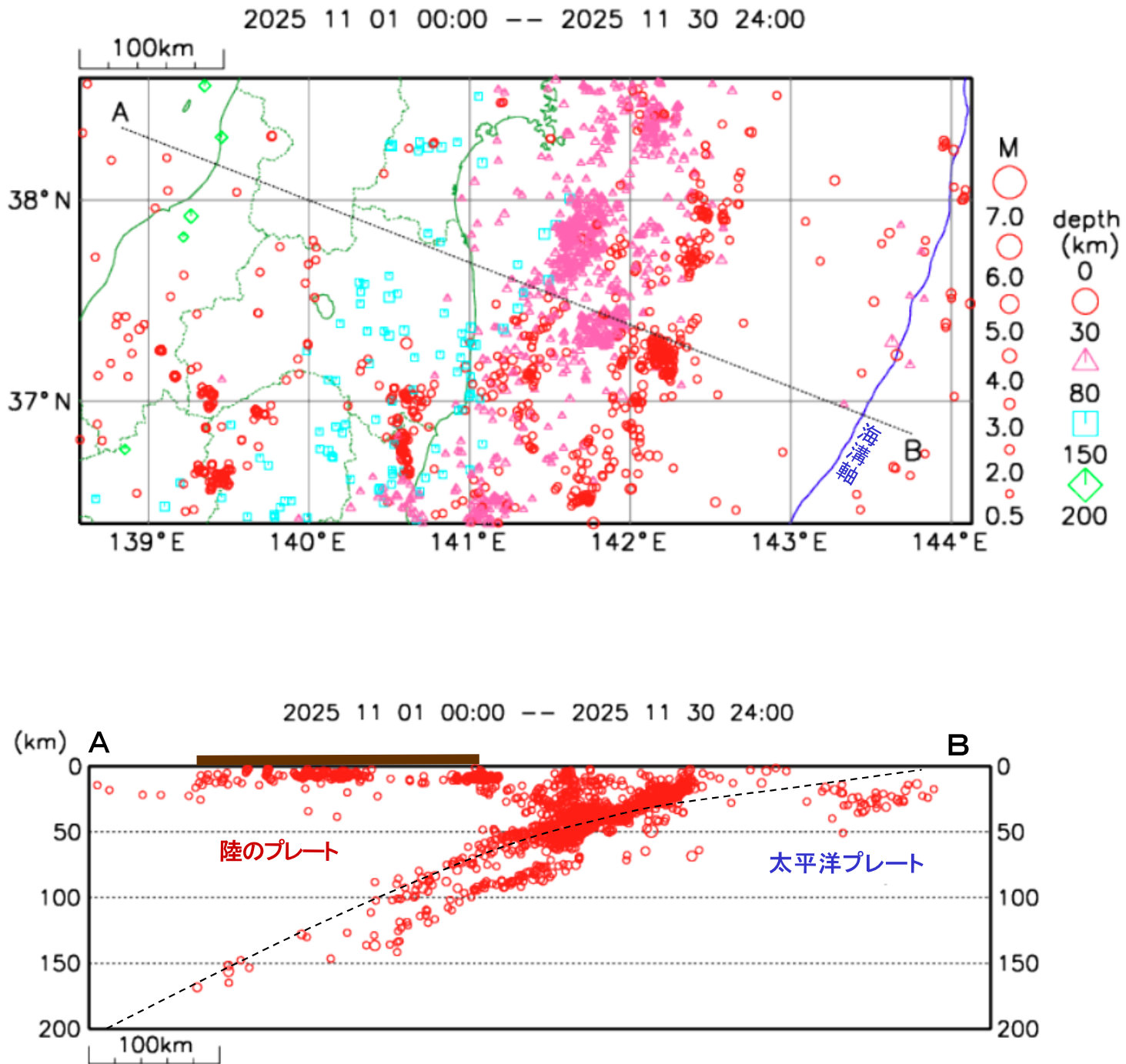


【震央分布図（上）および断面図（下）】



断面図は、上の震央分布図内の震源を直線A－Bの鉛直面に投影したものである。

太平洋プレートの上面の位置(-----)は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。

—— は、陸地の大きな位置を示している。

海溝軸付近から沖合の地震の震源は深さの精度が十分でないものも含まれており、実際は浅いところ（深さ10km～30km）のものが多いと考えられる。

福島県で震度1以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2025年11月1日～2025年11月30日

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2025年11月06日23時38分	福島県沖	37° 03.3' N	141° 13.3' E	48km	M3.7
福島県	震度2 : 福島広野町下北迫大谷地原＊ 川内村上川内早渡＊				
	震度1 : 白河市新白河＊ 田村市常葉町＊ 田村市都路町＊ いわき市三和町				
	福島広野町下北迫苗代替＊ 檜葉町北田＊ 川内村下川内 川内村上川内小山平＊				
	大熊町大川原＊ 浪江町幾世橋				
2025年11月09日06時24分	茨城県南部	36° 20.9' N	140° 04.6' E	71km	M4.0
福島県	震度1 : 白河市新白河＊ 白河市東＊ 須賀川市八幡山＊ 棚倉町棚倉中居野 矢祭町戸塚＊				
	矢祭町東館＊ 石川町長久保＊ 玉川村小高＊ 浅川町浅川＊ 田村市都路町＊				
	いわき市三和町 檜葉町北田＊ 大熊町大川原＊ 双葉町長塚＊ 浪江町幾世橋				
2025年11月09日17時03分	三陸沖	39° 24.1' N	143° 30.4' E	16km	M6.9
福島県	震度2 : 福島市花園町 福島市五老内町＊ 郡山市湖南町＊ 須賀川市八幡山＊				
	須賀川市八幡町＊ 桑折町谷地＊ 国見町藤田＊ 鏡石町不時沼＊ 矢吹町一本木＊				
	田村市大越町＊ 福島伊達市保原町＊ 福島伊達市前川原＊ いわき市小名浜				
	いわき市平梅本＊ 相馬市中村＊ 双葉町長塚＊ 浪江町幾世橋 新地町谷地小屋＊				
	南相馬市原町区高見町＊ 南相馬市鹿島区西町＊ 南相馬市小高区＊ 猪苗代町下園＊				
	会津坂下町市中三番甲＊ 会津美里町新鶴庁舎＊				
	震度1 : 福島市桜木町＊ 郡山市朝日 白河市郭内 白河市新白河＊ 須賀川市岩瀬支所＊				
	二本松市針道＊ 大玉村南小屋 天栄村下松本＊ 泉崎村泉崎＊ 棚倉町棚倉中居野				
	玉川村小高＊ 浅川町浅川＊ 田村市船引町 田村市都路町＊ 田村市滝根町＊				
	いわき市三和町 いわき市平四ツ波＊ いわき市錦町＊ 福島広野町下北迫大谷地原＊				
	福島広野町下北迫苗代替＊ 檜葉町北田＊ 大熊町野上＊ 大熊町大川原＊				
	飯館村伊丹沢＊ 南相馬市原町区三島町 南相馬市鹿島区柗窪 猪苗代町城南				
2025年11月09日17時54分	三陸沖	39° 27.1' N	143° 24.0' E	14km	M6.6
福島県	震度2 : 福島市花園町 福島市五老内町＊ 郡山市湖南町＊ 桑折町谷地＊ 国見町藤田＊				
	田村市大越町＊ 相馬市中村＊ 双葉町長塚＊ 新地町谷地小屋＊ 南相馬市小高区＊				
	震度1 : 福島市桜木町＊ 郡山市朝日 白河市新白河＊ 須賀川市八幡山＊ 須賀川市八幡町＊				
	大玉村南小屋 天栄村下松本＊ 泉崎村泉崎＊ 棚倉町棚倉中居野 玉川村小高＊				
	浅川町浅川＊ 田村市滝根町＊ 福島伊達市保原町＊ 福島伊達市霊山町＊				
	いわき市小名浜 いわき市三和町 いわき市錦町＊ いわき市平梅本＊				
	福島広野町下北迫大谷地原＊ 浪江町幾世橋 南相馬市原町区三島町				
	南相馬市鹿島区柗窪 南相馬市原町区高見町＊ 南相馬市鹿島区西町＊				
	猪苗代町下園＊				
2025年11月10日12時00分	三陸沖	39° 08.5' N	143° 01.4' E	20km	M5.5
福島県	震度1 : 福島市花園町 福島市桜木町＊ 郡山市朝日 郡山市湖南町＊ 須賀川市八幡山＊				
	国見町藤田＊ 天栄村下松本＊				
2025年11月10日16時23分	三陸沖	39° 33.5' N	143° 33.3' E	8km	M6.4
福島県	震度2 : 福島市花園町 桑折町谷地＊ 国見町藤田＊ 双葉町長塚＊ 南相馬市小高区＊				
	震度1 : 郡山市朝日 郡山市湖南町＊ 須賀川市八幡山＊ 浅川町浅川＊ いわき市小名浜				
	浪江町幾世橋				
2025年11月12日06時50分	茨城県北部	36° 27.8' N	140° 36.0' E	56km	M3.8
福島県	震度2 : 矢祭町東館＊ 玉川村小高＊				
	震度1 : 白河市郭内 白河市新白河＊ 白河市東＊ 白河市表郷＊ 白河市大信＊				
	須賀川市岩瀬支所＊ 鏡石町不時沼＊ 天栄村湯本支所＊ 泉崎村泉崎＊				
	棚倉町棚倉中居野 矢祭町戸塚＊ 石川町長久保＊ 浅川町浅川＊ 古殿町松川横川				
	田村市都路町＊ いわき市錦町＊ 檜枝岐村上河原＊				
2025年11月12日08時59分	福島県沖	37° 20.3' N	141° 13.6' E	55km	M3.4
福島県	震度2 : 田村市船引町				

発 震 時	震 央 地 名	北 緯	東 経	深 さ	規 模
各地の震度					
2025年11月13日02時55分	福島県沖	37° 11.7' N	141° 34.7' E	45km	M3.8
福島県	震度 1	：白河市新白河＊ いわき市三和町 檜葉町北田＊ 大熊町大川原＊ 双葉町長塚＊ 浪江町幾世橋			
2025年11月13日09時54分	茨城県沖	36° 11.4' N	141° 40.1' E	25km	M4.9
福島県	震度 1	：福島市花園町 郡山市朝日 郡山市湖南町＊ 白河市郭内 白河市新白河＊ 白河市大信＊ 須賀川市八幡山＊ 大玉村南小屋 天栄村下松本＊ 泉崎村泉崎＊ 棚倉町棚倉中居野 玉川村小高＊ 浅川町浅川＊ いわき市小名浜 いわき市錦町＊ 浪江町幾世橋			
2025年11月15日00時01分	福島県沖	37° 01.7' N	141° 56.5' E	49km	M4.3
福島県	震度 1	：白河市郭内 白河市新白河＊ 鏡石町不時沼＊ 玉川村小高＊ 小野町中通＊ 田村市船引町 田村市常葉町＊ 田村市都路町＊ いわき市三和町 檜葉町北田＊ 川内村上川内早渡＊ 大熊町大川原＊ 浪江町幾世橋 南相馬市原町区高見町＊			
2025年11月15日02時34分	福島県沖	37° 19.5' N	141° 54.1' E	37km	M4.2
福島県	震度 1	：白河市新白河＊ いわき市三和町 大熊町大川原＊			
2025年11月23日19時09分	福島県中通り	37° 17.3' N	140° 36.3' E	7km	M3.2
福島県	震度 2	：小野町中通＊ 小野町小野新町＊ 田村市常葉町＊			
	震度 1	：玉川村小高＊ 田村市船引町 田村市大越町＊ 田村市都路町＊ 田村市滝根町＊			
2025年11月26日15時17分	福島県会津	36° 58.7' N	139° 22.7' E	5km	M1.9
福島県	震度 1	：檜枝岐村上河原＊			
2025年11月29日21時23分	福島県中通り	37° 31.1' N	140° 29.9' E	93km	M3.3
福島県	震度 2	：大熊町大川原＊			
	震度 1	：浅川町浅川＊ 田村市都路町＊ いわき市三和町 福島県野町下北迫大谷地原＊ 檜葉町北田＊ 川内村下川内 双葉町長塚＊ 浪江町幾世橋			

(注)地震の震源要素等は、再調査により変更することがある。

各地の震度は福島県のみを示し、＊は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(平島、小宝島)、EarthScope Consortiumの観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成している。

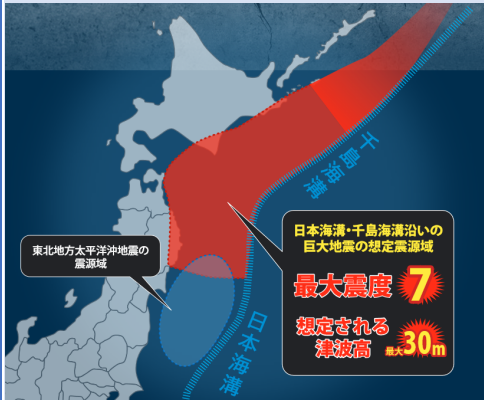

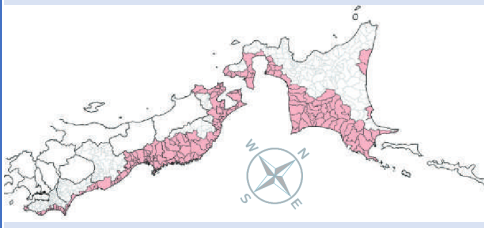
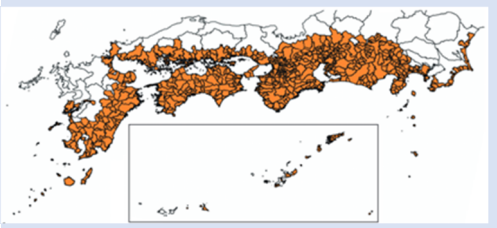
北海道・三陸沖後発地震注意情報 と南海トラフ地震臨時情報

令和 7 年 12 月 8 日に発生した青森県東方沖の地震（Mw7.4）により、令和 4 年 12 月の運用開始後初めて「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発表しました。北海道・三陸沖後発地震注意情報と南海トラフ地震臨時情報は、対象となる地域と被害想定が以下の表のように異なります。そこで、南海トラフ地震臨時情報と比較しながら、あらためて、北海道・三陸沖後発地震注意情報について解説します。

想定される巨大地震と防災対応が必要な地域

南海トラフ地震臨時情報が対象としているのは、南海トラフ地震という東海地方から九州にかけての太平洋側の沖合での発生が予想されている巨大地震の想定震源域です。対して、北海道・三陸沖後発地震注意情報が対象としているのは、三陸沖から北海道の太平洋側の沖合（日本海溝・千島海溝沿い）での発生が予想されている巨大地震の想定震源域です。いずれの地震も、強い揺れと巨大な津波により、甚大な被害が想定されています。そして、この被害を少しでも軽減するための情報として、北海道・三陸沖後発地震注意情報や南海トラフ地震臨時情報が運用されています。対象地域と被害想定は以下のとおりです（表 1）。

表 1 北海道・三陸沖後発地震注意情報と南海トラフ地震臨時情報が対象としている想定地震

	北海道・三陸沖後発地震注意情報	南海トラフ地震臨時情報
想定する最大クラスの地震の規模	Mw9.3（千島海溝モデル） Mw9.1（日本海溝モデル）	Mw9.1
想定震源域・ 想定最大震度・ 想定津波高など		
被害想定（最大）	死者・行方不明者 約199,000人	死者・行方不明者 約323,000人
防災対応が 必要な地域		

- ※ 地震の想定等は、内閣府中央防災会議により南海トラフ地震防災対策、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策のために行われた検討会・ワーキンググループ等の報告による。
- ※ 被害想定（最大）は、それぞれの地震の被害想定に関する報告の中で、最悪のケースとされている数値を記載。
- ※ Mw：モーメントマグニチュード（地震波形全体を詳細に解析することで得られるマグニチュードで断層の面積と断層すべり量の積に比例する。物理的な意味が明確で、M8.0を超える地震に対しても適切な値を求められるという特徴がある。）

北海道・三陸沖後発地震注意情報と南海トラフ地震臨時情報の違い

北海道・三陸沖後発地震注意情報も南海トラフ地震臨時情報も、巨大地震の発生可能性が高まっていることをお知らせする情報であるという点では同じです。しかし、南海トラフ地震臨時情報は、状況によって呼びかける内容が異なることから、それに応じたキーワードを付して発表するのに対して、北海道・三陸沖後発地震注意情報にはキーワードは無く、発表された際に呼びかける内容は固定となっているという大きな違いがあります。発表内容の違いは以下のとおりです（表2）。

表2 北海道・三陸沖後発地震注意情報と南海トラフ地震臨時情報の発表条件と呼びかけ内容

情報名（キーワード）	発表条件	呼びかけ内容
北海道・三陸沖後発地震注意情報	<ul style="list-style-type: none"> 想定震源域及びその周辺でMw7.0以上の地震が発生 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からの備えの再確認 すぐに避難できる態勢の準備
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）	<ul style="list-style-type: none"> 想定震源域及びその周辺でMw7.0以上の地震が発生（南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）に該当する場合を除く）したと評価 想定震源域内のプレート境界面において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からの備えの再確認 すぐに避難できる態勢の準備
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）	<ul style="list-style-type: none"> 想定震源域内のプレート境界でMw8.0以上の地震が発生したと評価 	<ul style="list-style-type: none"> 事前避難 日頃からの備えの再確認 すぐに避難できる態勢の準備
南海トラフ地震臨時情報（調査中）	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ沿いの大規模な地震と関連する可能性がある現象や地震を観測し、臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催 	なし
南海トラフ地震臨時情報（調査終了）	<ul style="list-style-type: none"> 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」により、観測された現象が（巨大地震警戒）、（巨大地震注意）の発表条件に当てはまらないと評価 	なし

新しい南海トラフ地震の被害想定

令和7年3月に内閣府中央防災会議の南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループから南海トラフ地震の新しい被害想定が公表されました。以前の想定では福島県沿岸は津波注意報クラスでしたが、新しい被害想定では津波警報クラスとなりました（図1）。

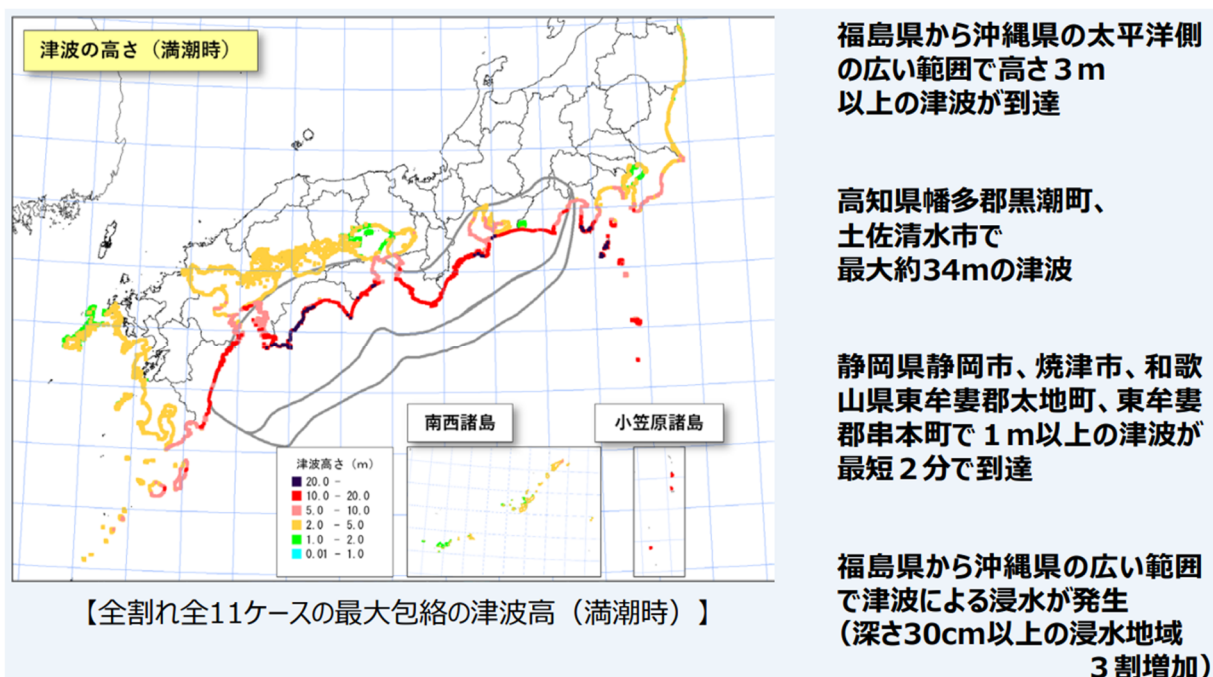


図1 南海トラフ地震で想定される津波高

内閣府 R7.3.31 公表「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ報告書説明資料」から引用

北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表されたときは何をすればよい？

情報が発表されて、防災対応が呼びかけられている間（発表から1週間程度）、通常どおりの生活（学校に行ったり、仕事をしたり）を送りつつ、普段より巨大地震の発生に注意し、**日頃からの地震への備えの再確認、すぐに避難できる準備などを行ってください。**

日頃からの地震への備えの具体例としては、水や食料の備蓄や簡易トイレ、防寒具などの避難生活で必要なものの再確認、避難場所・避難経路や家族との連絡手段の再確認、家具の固定や高い場所にある物の転倒・落下防止対策の再確認などがあります（図2）。



図2 日頃からの地震への備え リーフレット「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震」より

また、すぐに避難できる準備の具体例としては、避難情報を確実に取得できるようにしておく（スマートフォンや防災無線受信機等の音量アップなど）、スマートフォン等の情報を取得できる機器の予備バッテリーの準備、屋内の安全な場所での生活（がけに近い部屋から離れるなど）、非常持ち出し品の常時携帯（就寝時でもすぐに持ち出せるように準備）、すぐに逃げられる服装での就寝などがあります（図3）。



図3 北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表されたときの防災対応

リーフレット「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震」より

なお、北海道・三陸沖後発地震注意情報や南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されているからといって、防災対応が必要な地域（表 1 参照。北海道・三陸沖後発地震注意情報の場合、福島県は沿岸10市町が対象）への旅行や出張を中止しなければならない、というわけではありません。普段より巨大地震発生の可能性が高まっているとはいえ、発表期間である地震発生後 1 週間以内に巨大地震が発生する確率は100回に 1 回程度^{注1}です。ただし、緊急情報の取得態勢の確保に加えて、訪問先の市町村からのお知らせや交通状況、宿泊先や施設等の営業状況を事前に確認し、適切な行動を心がけるようにしてください。

注 1 世界の大規模地震のデータより、過去100年程度の間（1904～2017年）に発生したMw7.0以上の地震1,477回のうち、発生後 7 日以内に、その地震が発生した場所から500km以内の領域でMw7.8以上の地震が発生したのは17回であり、発生頻度は100回に 1 回程度である。なお、最初の地震がMw8.0以上の場合は104事例で、そのうち 9 事例でMw7.8以上の地震が発生している。

日頃からの地震の備えを忘れずに！

北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表期間である 1 週間以内に、大きな被害を伴うような大地震は発生しないことがほとんどです。たとえ、情報発表時に地震が起こらなかったとしても、「空振り」と捉えるのではなく、防災意識の向上につなげる「素振り」（＝良い練習ができた）と捉えましょう。また、何の前触れもなく巨大地震が発生する場合があります。**突発的に大きな地震が発生した場合に備えて、日頃から地震への備えを徹底しましょう。**そのうえで、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表された時には、その備えを再確認するようにしましょう。

（本件に関する問い合わせ先：福島地方気象台 024-534-0321）